

科学研究費助成事業(科学研究費補助金)研究成果報告書

平成25年6月10日現在

機関番号：42608
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2008～2012年度
 課題番号：20530758
 研究課題名(和文)ユニバーサルな保育制度の構想と実態に関するロシアと日本の比較・比較史研究
 研究課題名(英文)Comparative Historical Study of the Concept and the Actual Situation of the Universal Early Childhood Care and Education System in Russia and Japan
 研究代表者：村知 稔三 (MURACHI Toshimi)
 青山学院女子短期大学・子ども学科・教授
 研究者番号：00190926

研究成果の概要(和文)：ユニバーサルな保育制度の構想はフランス革命とロシア革命で提起され、20世紀に主要国の保育界で追求されてきた。ロシアでは1920年代に練られた構想が1930年代以降に拡充し、日本では戦後改革を起点に1970年代にかけて量的に拡大した。近年、超少子化と人口減少に直面する両国では、この構想の実現の成否が社会の持続可能性を左右している。ロシアは1990年代の保育改革と2000年代後半の子育て支援策でこの構想の実現に努めている。

研究成果の概要(英文)：The concept of the universal Early Childhood Care and Education (ECCE) system, which provides all infant the free and certain level of childcare, was proposed in the French Revolution and the Russian Revolution, and has been pursued in the major countries in the 20th century. In Russia, the concept was worked out in the 1920s and was expanded after the 1930s. In Japan, the postwar reform was the starting point for the ECCE system, which was expanded quantitatively by 1980. In recent years, the super low fertility and the population decrease confront both countries, where are on the stage that the social sustainability is influenced by the concept of the universal ECCE system. Russia began to realize the concept of the universal ECCE system with the ECCE reform in the 1990s and the aid-for-childcare policy in the second half of the 2000s.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
20年度	1,200,000	360,000	1,560,000
21年度	600,000	180,000	780,000
22年度	600,000	180,000	780,000
23年度	500,000	150,000	650,000
24年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：保育学

科研費の分科・細目：教育学・教育学

キーワード：保育制度、家庭養育、ロシア、日本、フランス

1. 研究開始当初の背景

(1)1991年末のソ連解体後のロシアは、社会の崩壊と経済の混乱を背景とした出生率の低下と保育施設網の縮小に直面した。その後、2000年代に入ると、高い経済成長を受けて政府が少子化問題の克服と保育施設網の

回復に本格的に取り組み始めた。

(2)ただ、いったん半減した保育施設網を短期間で元に戻すのは難しく、残された施設への園児の詰め込みと待機児童数の著しい増加が2000年代後半のロシア保育界の特徴となっていた。

(3)この点は同時期の日本保育界が直面した状況とよく似ている。両国の保育界の現状、および、その歴史を比較する理由と重要性はここにある。

2. 研究の目的

(1)1930年代以降のロシア保育界の動向を、ユニバーサルな保育制度(希望するどの幼児にも一定水準の保育を無料か廉価で保障できる制度)の構想と実態の交錯に焦点をあてて、追跡する。

(2)そこで明らかになる保育制度の様態の特徴を20世紀日本の保育制度のそれと比較する。

(3)それらを通して、現代社会に適用可能なユニバーサルな保育制度に関するモデル仮説を構築する。その際、日露両国の保育経験の相対化が必要なので、両国の「参照国」フランスにおける保育制度の歴史的特徴についても掌握する。

3. 研究の方法

(1)比較の対象を、研究代表者の専門であるロシアと、そのロシア研究にあたり代表者が常に念頭においてきた日本に限定した。なかでも、保育施設の需要が高かった首都やそれに準ずる大都市のケースについて詳しく見た。主な対象期は両国でともに保育施設の整備が進んだ1930年代以降とした。

(2)両国の保育制度の様態の特徴を別の角度から明らかにするという意味で、19～20世紀にユニバーサルな保育制度を整備してきたフランスの経験を参照した。

(3)①日本の現行の保育制度の特徴とフランス保育史の独自性をより深く理解するため、各分野の専門家から知見を借用した。②モスクワやサンクト・ペテルブルクなどの大学に所属する研究者から協力を得た、③保育制度の実態を把握するにあたり、保育行政の専門家や保育現場の責任者に対する聞き取りを実施した。

4. 研究成果

(1)現代ロシア社会における出生率の低下(量的問題)だけでなく、出生をめぐる危機(質的側面)についても、これまで知られていなかった事態を明らかにした。また、1990年代を通して半減した保育施設網の実際をモスクワ、ペテルブルク両市について詳らかにした。

(2)こうした事態への対応として2000年代に強化された子育て支援策などを通してユニバーサルな保育制度が現代ロシア社会でどの程度まで実現し、何がその障害となっているか、という点について論じた。その際、1990年代後半以降の日本の保育改革の目的・経過・結果との対照を行ない、両者の異

同を指摘した。また、それをロシアの保育(史)研究者に還元した。

(3)日露両国で近年、実施されつつある保育改革の背景として、それぞれの保育史の推移と特徴について従来の見解と異なる知見を提起した。

(4)参照国として設定したフランスと日露両国との比較は限定的なものに留まらざるを得なかった。だが、ユニバーサルな保育制度に関するモデルを仮設することはできた。今後は、この仮説をより多面的に検証し、発展させることが求められている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計10件)

村知稔三、書評 関啓子著『コーカサスと中央アジアの人間形成』、ロシア・ユーラシアの経済と社会、査読無(依頼原稿)、第969号、2013年、46～51ページ。

村知稔三、20世紀ロシア子ども史研究の課題、ハルシオン、査読無、第3号、2013年、17～27ページ。

村知稔三、20世紀ロシア子ども史研究の意義、青山学院女子短期大学紀要、査読無、第66集、2012年、93～105ページ。

村知稔三、体制転換後のロシアにおける出生動向と保育改革、白梅子ども学叢書、査読無(依頼原稿)、第5号、2012年、29～60ページ。

村知稔三、世紀転換期のロシアにおける「革命」と子ども、青山学院女子短期大学総合文化研究所年報、査読無、第18号、2011年、37～54ページ。

村知稔三、現代ロシア社会における子どもの養育をめぐる諸問題、青山学院女子短期大学紀要、査読無、第64集、2010年、123～139ページ。

村知稔三、現代ロシアの乳幼児の生活と保育、ユーラシア研究、査読有、第43号、2010年、49～55ページ。

村知稔三、世紀転換期における日本とロシアの保育界、幼児の教育、査読有、第109巻第8号、2010年、4～7ページ。

遠藤忠・村知稔三ほか「サンクト・ペテルブルク市におけるキャリア教育の現状と動向、岩崎正吾代表、ロシア連邦のキャリア教育に関する総合的調査研究、科学研究費補助金成果報告書、査読無、2008年、107～130ページ。

村知稔三、ソ連崩壊後のロシア社会における少子化の進展と子育ての実態に関する調査・研究、科学研究費補助金成果報告書、査読無、2008年、65ページ。

〔学会発表〕(計6件)

村知稔三、遅塚忠躬著『史学概論』の提起と子ども観の社会史研究への示唆、世界子ども学研究会第8回研究例会、2013年3月30日、青山学院大学。

村知稔三、教育学・教育史研究からみた関啓子著『コーカサスと中央アジアの人間形成』の意義と課題、北海道ユーラシア研究会第102回研究例会、2012年11月24日、北海道大学。

村知稔三、体制転換後のロシアにおける保育改革、第5回白梅子ども学講座「世界の子ども政策から学ぶ2」、2011年11月26日、白梅学園大学(招待講演)。

村知稔三、ソ連解体後のロシア社会における出生と保育の動向、世界子ども学研究会第4回研究例会、2011年3月12日、青山学院大学。

村知稔三、現代ロシアにおける保育改革とその結果、幼児教育史学会動向研究会、2010年12月5日、長野県短期大学。

村知稔三、1990年代と2000年代前半のロシアにおける周産期～乳児期に関する2つの局面、幼児教育史学会動向研究会、2008年6月28日、上智大学。

〔図書〕(計1件)

村知稔三、ロシアの保育と表現教育、浅見均編著、子どもと表現、日本文教出版、2009年、64～67ページ。

〔産業財産権〕

○出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者 ()

研究者番号：

(2)研究分担者 ()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

